

(財)エンジニアリング振興協会 地下開発利用研究センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6 CYDビル
TEL 03-3502-3671(代) / FAX 03-3502-3265
ホームページアドレス ; <http://www.ena.or.jp/GEC/>
E-mail アドレス ; gec-adm@ena.or.jp

第 237 号 / 2009. 6

Index

- 平成 21 年度 第 1 回 研究企画委員会 報告
- エン振協 研究成果報告会 2009 開催のご案内
- 平成 21 年度 日帰り見学会 報告
 - 首都高速・高速川崎縦貫線・MMST シールド工事
- 新任のご挨拶
- 会員の皆様へのお知らせ
 - 第 318 回サロン・ド・エナ開催のご案内

■平成 21 年度 第 1 回 研究企画委員会 報告■

平成 21 年度の第 1 回研究企画委員会が 5 月 18 日(木)15 時 30 分より、当協会 6 階会議室において開催されました。

入澤常務理事の協会挨拶、荒井康博委員長(大成建設(株) 専務 土木営業本部長)挨拶の後、荒井委員長の司会により議事が進められました。

議題と議事内容の概要は、以下のとおりで審議事項についてはいずれも承認されました。

議題 1: 前回研究企画委員会議事録の確認

議題 2: 平成 21 年度補助事業のテーマと委託先について (審議)

議題 3: 平成 20 年度 事業報告について (審議)

議題 4: 平成 21 年度 事業について (報告)

議題 5: 平成 21 年度 エンジニアリングに関する調査研究<提案公募>の予定について(報告)

次回の平成 21 年度第 2 回研究企画委員会は、9 月に開催予定です。

■エン振協 研究成果発表会 2009 開催のご案内■

来る平成 21 年 7 月 9 日(木)~10 日(金)の 2 日間にわたり、下記のとおり、「エン振協研究成果発表会 2009」を開催いたします。本成果発表会は、当協会における主として平成 20 年度の委員会、研究会等での研究成果を発表いたしますので、是非多数の方々にご参加いただきたくご案内申し上げます。

1. 会 期: 7 月 9 日(木) ~10 日(金) の 2 日間
2. 会 場: 当協会 6-CDE、7-AB 会議室、
(7 月 9 日は 6 階、7 階の 2 会場に分かれて開催致します)
3. 参 加 費: 無 料
4. 定 員: 6 階 120 名、7 階 60 名
(定員になり次第締め切ります)
5. プログラム: 下欄参照(GEC・SEC のみ掲載)
6. 申込み要領:
 - ①必ず所定の申込用紙(別添)で取りまとめ、フ

ックス或いは郵送にてお申し込み下さい。

②申込責任者名を必ずご記入下さい。

③参加予定のセッション欄を○で囲んで下さい。

④申し込み者が定員を超える場合は締め切らせていただきますが、参加登録できなかった場合に限りご連絡いたします。

なお、申込者多数のセッションについては、申込者の多い企業に調整をお願いする場合がありますことを予めご承知おき願います。

連絡のない場合は参加登録できたものとお考え下さい。

7. 申込締切日: 平成 21 年 6 月 30 日(火) (先着順)

☆ホームページからもお申込みいただけます。

<http://www.ena.or.jp/> (全体プログラム・ダウンロード可能)

8. 問い合わせ先: GEC 中村

Tel 03-3502-3671 FAX 03-3502-3265

エン振協 研究成果発表会 2009 プログラム

(石油開発環境安全センター／地下開発利用研究センター)

| |
|---|
| 7月10日 (金) |
| 開場 (受付開始) 9:30 |
| 午前の部 |
| 石油開発環境安全センター部門 開会の挨拶 10:00 (入澤常務理事) |
| E-1 <10:05~10:30> 「海洋掘採施設環境影響調査」—磐城沖海洋掘採施設撤去前の周辺海域環境の現況— 亭島 博彦 ((株) 日本海洋生物研究所 技術研究部 部長) |
| E-2-① <10:30~10:45> 「メタンハイドレート開発促進事業 環境影響評価に関する研究開発」 —環境に配慮した開発に向けたフェーズ1 研究成果と目標達成状況— 三浦 秀夫 ((財) エンジニアリング振興協会 石油開発環境安全センター 副所長) |
| E-2-② <10:45~11:15> 「メタンハイドレート開発促進事業 環境影響評価に関する研究開発」 —微生物遺伝子をバイオマーカーとして利用したメタン漏洩 モニタリング技術の開発と生態系影響評価への活用— 吉田 光毅 (大成建設(株)技術センター水域・生物環境研究室 生物環境チーム 課長) |
| 二酸化炭素地中貯留推進室部門 開催の挨拶 11:15 (入澤常務理事) |
| E-3 <11:20~12:00> 「二酸化炭素地中貯留技術研究開発—貯留層賦存量調査 平成20年度成果報告」 中西 繁隆 (電源開発(株) 火力エンジニアリング部 調査役(地熱技術担当)) 志田原 巧 ((株)ニュージェック 国内事業本部 技師長) |
| (昼 休 み) |
| 午後の部 |
| 二酸化炭素地中貯留推進室部門 (続き) |
| E-4 <13:00~13:30> 革新的ゼロエミッション石炭ガス化発電プロジェクト ～発電から二酸化炭素貯留までのトータルシステムのフィージビリティ・スタディー(FS)～ 「CO ₂ 輸送システムの概念設計のうち、パイプライン輸送の概念設計」 古川 博宣 ((財) エンジニアリング振興協会 石油開発環境安全センター 研究主幹) |
| E-5 <13:30~14:00> 国際革新的ゼロエミッション石炭火力発電に関する技術動向調査 ～二酸化炭素輸送・貯留技術におけるサイト選定方法及び、 リスクアセスメント手法に関する調査～ 金光 雅弘 ((財) エンジニアリング振興協会 石油開発環境安全センター 部長代理) |
| 地下開発利用研究センター部門 開会挨拶 14:00 (入澤常務理事) |
| E-6 <14:05~14:35> 「大深度地下を活用した首都圏物流トンネル・新輸送システムの可能性調査」 横塚 雅実 (鹿島建設(株) 土木管理本部 土木技術部 部長) |
| E-7 <14:35~15:05> 「3次元地下空間情報の利活用に関する調査研究」 高橋 祐治 (鹿島建設(株) 土木設計本部設計技術部 担当部長 (設計品質管理担当)) |
| 休 憩 10分 |

E-8 <15:15~15:45>

「バイオマス起源DMEを含むエネルギー貯蔵・供給システムの開発」

米山 一幸 (清水建設(株) 技術研究所 安全・安心技術センター 地下技術グループ 主任研究員)

E-9 <15:45~16:15>

「気体水和物利用による水素貯蔵システムの検討」

柴田 敏雄 (三井住友建設(株) 土木本部 土木設計部 構造設計グループ長)

E-10 <16:15~16:45>

「ミュー粒子の工学応用による地中空洞化調査システムに関する調査研究」

鈴木 敬一 (川崎地質(株) 事業本部 探査技術部 技術開発グループ 課長)

E-11 <16:45~17:15>

「大規模災害に対する中堅中小企業の事業継続セーフティネット調査」

加藤 猛士((財)エンジニアリング振興協会 地下開発利用研究センター 技術開発二部 主任研究員)

■平成21年度 日帰り見学会 報告■

□首都高速・高速川崎縦貫線・MMST シールド工事

平成21年度日帰り見学会は、平成21年4月21日(火)に総勢34名が参加して実施しました。

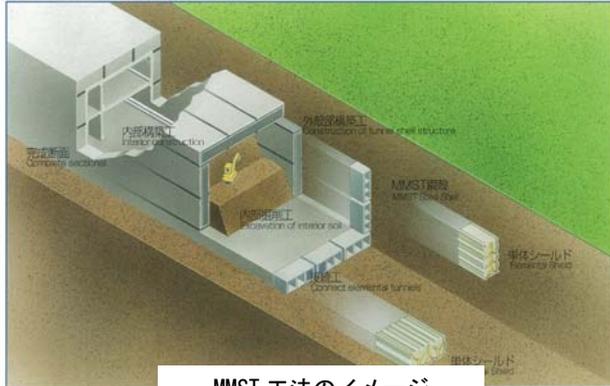
本工事は首都高速道路(株)による高速川崎縦貫線・大師 JCT の地下部分であり、東京湾アクアラインと高速神奈川一号横羽線を接続すべく工事が進行中です。本トンネル建設に用いられたMMST(マルチ・マイクロ・シールド・トンネル)工法は小型の矩形シールドマシン(写真参照)を複数回用いて大断面の外枠部分を形成するものです(イメージ図参照)。

今回は大師立坑から殿町立坑に至る約540mの区

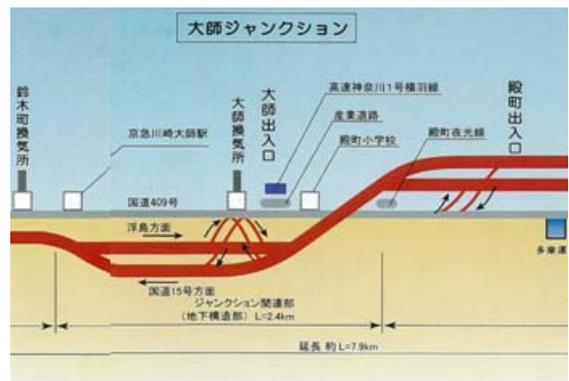
間を見学させて頂きました。当日はプレハブ構造物(ボックス・カルバート)をベアリングで搬送するボックスベアリング工法による施工が進行中でした。見学者は掘削断面積約600㎡という規格外の地下空間に圧倒されつつ、この工事の特色や優れた技術を随所に見学することが出来、大変有意義な時間を過ごせたことを喜んでいました。

ご多忙中のところ、見学対応していただきました大成・鹿島・戸田JVの水野所長ならびに関係者の方々に、この紙面をお借りして御礼申し上げます。

イメージパース図 Perspective View



MMST 工法のイメージ



MMSTシールド機 MMST Elemental Shield Machine



出典：首都高速道路(株)高速川崎縦貫線・パンフレット



参加者一同

■新任のご挨拶■

青柳 教之（技術開発第一部 研究主幹）



5月1日付で技術第一部に勤務することになりました青柳です。清水建設株式会社よりまいりました。今までの経験は、土木の現場（土地造成、下水道、港湾関係、橋梁等）に約25年、その後営業部に所属し、約10

年間土木建設案件の育成等に注力しました。直近は新規案件受注のための営業及び見積り作業に注力してまいりました。

また、これらの経験の内、土木の現場従事の約60%

を、東南アジアの諸国（マレーシア、インドネシア、ラオス等）及び中東（UAE,クエート）にて経験し、

また、営業部時代においても、そのほとんどを、東南アジアの諸国にて勤務してまいりました。

このたび、地下センターにて、皆様とともに「新しいテーマを創造し、新規建設案件を育成するような業務」に携われることを、非常にすばらしいと感じております。至らぬことも多々あるかと思いますが、皆様のご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

（平成21年5月1日着任）

■会員の皆様へのお知らせ■

□第318回サロン・ド・エナ開催のご案内

日時：平成21年6月17日（水）16:30～19:00（於：当協会 6階 CDE会議室）

テーマ：海洋リモートガス田への挑戦

ーインドネシア洋上でのLNG（液化天然ガス）化事業を目指すー

講師：菅谷 俊一郎 殿 国際石油開発帝石株式会社 取締役常務執行役員マセラ事業本部長

講演要旨： 昨今発見される大型の海洋ガス田は、大水深で且つ地理的にも主要都市部や既存ガス関連施設から遠く離れた地域が多く、既存技術のみを用いた開発方式では商業的に困難さが増してきています。こうした背景から、遠隔地での海洋ガス田の開発手段として、新技術である浮遊式の Floating LNG（洋上 LNG 施設）を用いた開発方式の検討が進められ、その実現化に向け動き始めています。

今回取りあげるアバディ海洋ガス田は、1998年に公開入札により取得したインドネシア領アラフラ海域のマセラ鉱区の中にあり、2000年に試掘されたアバディ1号井でガス及びコンデンセートが確認され、その後、埋蔵量の評価とともに、近隣にチモール海溝が横たわる大水深で且つ既存ガス関連施設等から遠く離れていることを念頭に置いた開発方式の検討・選定を経て、Floating LNGを用いた真のフロンティアと言える開発計画が策定され、インドネシア政府よりも承認を得られたプロジェクトです。

本講演では、先ず、Floating LNGを巡る世界の動向などについて話をして頂き、その後、アバディ海洋ガス田開発にこの方式を採用するに至った経緯として、フィジビリティスタディの概要と特に注力した検討事項などについて概説して頂く共に、今後の具体的な開発計画などの展望を語って頂く。

申込方法： ホームページ又は FAX で事務局まで事務局へお申し込みください。

地下開発利用研究センター事務局 中村（Tel 03-3501-3671/FAX03-3502-3265）

*会場の都合により、申込者が多数にのぼる場合は、先着100名様程で打ち切らせていただく場合がありますので予めご了承下さい。